

大正十二年

静かに新しい春は迎へられて手餐は在舎生一同祝シャンペンの乾盃を行ひ皆の健康を祝すると共に舎の永遠の安泰を祈る。

一月三日 正月の一日家庭にて楽しむ為め、帰省中の笹田君帰舎。

六日 夜遅く、多勢、坂本両君帰舎。朝山田壬君帰舎。

七日 朝、井沢君帰舎

九日、朝時田君帰舎

十一日 朝、板緑君帰舎

十四日 松島君帰舎、今井君帰舎

十五日 晩、山縣汎君退舎す。梅津君帰舎。

十六日 文藝部を引つぐ(梅津)。本年は猛烈な積雪なり。樹々の丈為に低く見ゆ。深五尺窓より手をのばさずして雪をとる。山縣君退舎は昨晚披露されし通、皆にとつての損失なり。長き間舎の為に最も熱心に考慮し盡力されし功忘るべからず。

十七日 競賣あり。(前月迄の集金すみたり)

タイムス 五二銭 波木居君 万朝 八五銭 山田壬君

朝日 九〇銭 奥田君 太陽一五銭 奥田君

中央公論 五〇銭 多勢君

沈滞的気分見え閉口す。松本君より近況報告あり。

二十一日 暖き日なり。雨降る。けだし寒中に雨降るとは奇現象なり。予独二岩澤周一君入舎さる、九号井澤君と同居、アインシュタイン相対性原律の活動を見に行くもの多し。

二十二日 牧笛第三号を発行するべく原稿紙をくばる。大作名文を期待す。寒冷再びかへり来り、多勢、山田、坂本、今井、中村、梅津のスキー党の面々、風雪に生气あり。冬は寒からざるべからず。

二十三日 月次会委員発表さる。今井君、波木居君、山田壬君、飯島君 以上晩にお汁粉の御馳走が食事部からあった。

近く和歌山寄宿とピンポン仕合をする事となる、練習を望む。

二十六日 寒気猛烈なり。この日零下二〇度に及ぶ。「カラマーゾフの兄弟」の活動写真エンゼル館にきたり、見にゆくものあり。

二十七日 本年第一回の月次会行はる。まづ牛肉のすき焼に腹鼓をうつ。山縣、笹部の両君ともに食ひ快談す。生憎宮部会長月次会にでられず河村氏久し振りに来らる。

今井君の開会の辞にはじまり奥田君の挨拶。岩沢君の新らしく入舎されし挨拶があり、五分間演説となり皆演壇に登る。

板緑君のコンデをもらひ勉強する決心より始る。笹田君の次に松島君スキーと眞理発見を語り、土井君佛のルール占領をなじり、転じて金原翁の死を悼まれ、時田君「更に大なるサムシングの為に」なる標語を「只一事を望むに変へられし事につき語り、論議は論議をうむと云ひ、山田壬君運動部としてスキーを宣伝され、山田彌君ブラウニングの

詩よりラブ イズ ベストをいはれ、多勢君二倍の意気と二倍の努力を力説し、矢田君徳育と漢学論を唱導され、坂本君亦スキー熱をあふり、梅津君天の河と流星の事を話し、富永君何事も眞面目にと厳かに述べられ、飯島君東風吹いて猫かなしみ云々の独特な哲学を説かれた。小林君の軽快なユーモア後、笹部君立ちて旺盛な生命力意力を讃美され実世界に只空論的学問は無益と云はる。

河村氏、青年寄宿舎の前身「北二條東二丁目の長屋に学生生活をされし時の話をされ、波木居君の個人主義、国家主義について語られ生活内容の大なるもの程己を大なる地に於て見るといひ、個人主義の国家主義に劣るを説かれ閉会とする。次に茶菓遊戯あり楽しく散会す。

二十八日 中村君今日より外にて食を取らる事となり外泊す。天晴てスキーに行くもの多し。

三〇日 札幌堂に於て創造、サッフオ、ホイットマン詩集、光の中に歩めの四冊購入す。昨夜決算あり、一日食費四八銭は近頃珍しき程の廉価なり、食事部大手柄。

三十一日 牧笛原稿締切日なれどちっとも集らず閉口す。万朝、朝日の新聞代二円を拂ふ。

二月一日 図書整理をす。

二月五日 牧笛第三号発行、口檜は時田君がかき、奥田、松島、梅津、中村、飯島、波木居、時田、坂本諸君の稿、人数に於て少きに遺憾なり、されど皆確実な所あり、量に於て相当にありしは喜ぶべし、寄稿者諸兄に感謝す。

二月十一日 紀元節にして日曜なり、佳節日本晴祝ふべし、日曜とぶつかるは少しく平行、ピンポン大会晝飯後すぐはじまる。

激戦の後、富永君の奮闘も遂に紅軍の主将山田ヤ君の為にねばりたふされぬ紅軍歡び呼ばふ。後、高点仕合あり。奥田君の十本抜の一等賞、時田君二等、梅津君三等、山田ヤ君四等の順序なり。

食事部亦奮発してお汁粉の御馳走あり。

二月十三日 大書してこの日を覚えん哉、三年の上昇も帝麻の強襲に遂にピンポン仕合はわれに利あらざりき、雌伏一年の後こそは必ず 敵を一敗地にまみれせしめん事をここに誓ふ。

家に帰りにて食せし心づくしの寿司もうまからず、寒風身にしむ皆言葉少し、この日矢田君御祖母病篤との飛報来り、急に帰郷さる、御全快を祈る。

二月十九日 日米間の平和の施設ギュリック博士中央講堂に於て平和運動及び加州日人につきて演説あり。論は、或は、我等の聞慣れし事ならんも氏の熱誠と公平、国際間のジャスティスにつくす努力に満腔の敬意を拂はざるを得ず。

平和の為の努力これ最高の努力なり。満場に深き感動を与えたるものゝ如し。

二拾二日 予科は櫻星会の送別があり、午後は授業なし。醫科へ解剖を見に行き気持を悪がってゐたる者あり。

二拾四日 月次会あり。非常なる御馳走ありし後、委員多勢君の開会の辞にはじまり、奥

田君の挨拶その他舎生の演説あり。亀井さんが今年始めて来られて、大変久しぶりの感想があり、北村さん例の如く植物とラヂウム土壤、その他についてとかる。へボ抜け元気よし。小林君、五円、山縣君一円寄附あり。

三月一日 競賣を行ふ。大に活気だちて成績より。

タイムス 六一銭 矢田君 万朝 八五銭 笹田君  
朝日 一・〇〇銭 岩沢君 中公 八五銭 山田壬君  
太陽 五三銭 奥田君

又も雪がたっぷり降り壯観なり。

三月二日 小林氏より文藝部に一円寄附ありたり。

三月三日、桃の節句も試験近くして沈痛なり。

しかし今日は思ひがけぬ愉快な日であった。

舎の先輩で印度ジャハその他南洋をまたにかけて雄飛してゐる三好さんが舎に来られた晚餐を共にし後愉快的な南洋談があり我等若き者の血を躍らせた。三好さんは沢山苦勞をしてゐる人らしい僕等と語り若がへつたと大喜びその後でそれは種々様々の無邪気にして痛快な遊戯をして夜の更くるも知らなかった。

三月四日 タベ三好様は舎にとまり今日は是非舎生のスキー姿が見たいとの事。皆こぞつて舎前のスロープですべて見せた。小さな写真器で撮影して行かれた。

三月六日 試験近し。皆のがんばりもいよ ラストヘビーとなりかけたり。

三月十日 試験も愈々始り深夜ストーブの灰をかき出す音聞ゆ。

三月十四日 黒板に於て夕食時間につきて問答ありしやうなり。

三月十七日 試験終り重荷をおろしたる感あり。

月次会あり。抽籤三分間演説を行ふ、仲々面白し、山田壬三君の送別会を兼ね。

舎長御訓話の後副舎長の選考あり、奥田君再選せらる。

当選 八票 奥田君 次点 五票 中村君

次点 四票 山田彌君 次点 一票 松本君

次点 一票 松島君

閉会の後来学期委員の選手あり。

衛生部 飯島君 食事部 笹田君

文藝部 坂本君 運動部 岩沢君

会計部 今井君 以上。

後、へボ抜けの盛なる活躍ありたし。

宮部先生のお話は試験制度について、精力のの集中には試験は良方法なり、といはれ、昔、宮部先生と同室の内村先生についてその勉強振りを話され興味深かりき。

三月十八日 皆延び と寝る。多勢君朝に帰省さる。

十九日 夕方波木居君四時の汽車で出発さる。九時の汽車で富永君岩沢君かへらる。

二十日 朝時田君、晩飯島君かへらる。晝笹田君もかへらる。

二十一日 晩、坂本君と中村君と帰る。伊澤君退舎さる。

二二日 奥田君朝夕張へ行かる。

二三日 残りしは山田彌君、矢田君、松島君、土井君、今井君、玉川君、梅津君なり。トランプにコンパに愉快地暮す。今日は彼岸中日お萩の御馳走あり。

二七日 奥田君夕張より帰舎さる。予科成績発表あり、鮮出はじめ食膳を賑す。こんなにうまいものとは知らざりき、家鴨卵を産むうい奴なり。

二八日 村上達ピンポンをしに来て遊んでいった。

道の雪は急に消えはじめた春はいよ　くるこの一月の間に奇跡が行はれる事になってゐる。北海の春の急激な事はむしろ信ずるに難いものがあり今は未だ薄黒い野の上に緑の若草を夢想するのみ。

四月三日 一人減り二人減りして大分淋しくなった。

しかし舎生皆元気で沈痛ならず、角帽祭をする。

四月八日 笹田君(晝)先頭第一に帰舎された。十人も一事にふえた様な気がして嬉しくあった。

もう休みが終ったと思ふとオヤ　　と思った。

第一番の佐々木高綱に恩賞なかるべからず。

夕食に御馳走けだしビフカツなり。

四月九日 玉川君(昼)実習に行かる。平岡君(夜)入舎さる。

四月十日 三年の長い間舎の為に愉快地盡された山田彌五郎君急に退舎される事となった。思へば残念な事である。

ピンポン、庭球、野球の第一人者を失ひ大打撃である。尚舎の外から陰に陽に援助される事と信じ別れた。今又時は無情だとつく　　思った。

四月十一日 昨夜遅く多勢君が帰った。うまいものをうんと食べて来たらしく元気いよ

盛に見えた。学校は今日からはじまる。時田君朝帰舎さる。まず　愉快である。山口千さん九日より舎に來訪さる森林主任の会合が札幌にあったよし、今日かへらる。

夜山田君の送別コンパあり、平岡君の歓迎を兼ね。平岡君は英2予二年、二号に入っている。松島君、帰舎された。

四月十四日 午後亀井新婚夫妻が盛装して舎を訪問さる。けだし亀井さんが新嫁君を舎生一同に紹介される為なり。昔にいさゝか堅くなり気味で挨拶を交す。新郎新婦の上に長く幸福あらん事を願ふ。金十円の図書券を寄付して行かれた。

つゞけ様に愉快になる原因を與へられた。

四月十五日 昨夜遅く、坂本君が帰舎さる。

今日は農学実科一年の加藤要君は六号に林学実科一年大村安正君入舎さる。

新進気鋭の士をむかへて活気みなぎるを覚える。尚今日の様な事があれば一層愉快だ。

小林様笹部さん共に帰札され來訪された。舎はどの位懐しいものかは出られた人達の舎を訪問される際の嬉し、想ふ顔でわかる。

主義で一致する人達の表門は入るは狭い。しかし入った人は皆舎の子供だ。こゝに楽しい家庭がある。

四月十[七?八?九?]日 水産一年山口迪恵君入舎さる。

四月二十一日 右之如くに室変へ行はる。

特別室奥田君 壹号波木居君 貳号坂本君、大村君 参号多勢君、山口君 四号松島君、  
笹田君 五号時田君、川島君 六号中村君 七号今井君 八号飯島君、土井君 九号梅  
津君、平岡君 十一号矢田君、加藤君 二号玉川君、岩沢君 十二号松本君  
因に、川島君は予科英農一年生にて、四月十三日入舎せる。

四月二十八日 午後、舎の周囲の掃除を行ふ。夜、特別室にて茶菓のまどいあり。

五月四日 北海の天地は今や精に燃え出ようとしてゐる。垣越に見ゆる植物園はいつか  
若々しいローンに、色どられてゐる。北海の春!札幌の春!聖都.....

今日は、実に活気に満ちた、若人の胸をどらす日だ。吾人はこの雪にうづもれた半才を  
如に春の世界を渴望したことであったらう。

午後から舎生一同喜々として、舎の周囲の整理をなしてから梅〔桜?〕の苗を舎の周囲  
にうえた。

五月六日 新入舎生並びに月次会を行ふ。五時半会食。舎長宮部先生お忙がしい処を、出  
席さる。その外先輩としては亀井、笹部両氏来る。今井君の開会の辞、次いで新入舎生  
四君、大村君、山口君、加藤君、川島君、入舎の辞を述べらる。次に舎生こも 立っ  
て、歓迎の言を延べ。

最後に、宮部先生の訓辞ありたり。

それが終って茶菓が出で、文藝部競賣行はる。

五月十三日 午前七時より大学グラウンドにて、尚志舎と野球試合を行ふ。おしくも四対二  
にて破る。

五月二十九日 山口迪恵君家事の都合上退舎され帰国さる。

五月二十七日 青年寄宿舍春季庭球大会を行ふ。

午前中は、高点試合。午後一時よりは、東西室の試合にて高点試合に於ては、梅津、山  
口君の組優勝さる。東西の試合にては、遂に西側の勝利に帰する。夜は運動部委員より  
茶菓の興あり。

五月二十五日 月次会を行ふ。委員は、岩沢、松本、土井、松島の四君。今日は、宮部先  
生見えらる。

奥田君、波木居君、山口君、多勢君、坂本君、大村君、平岡君、松本君こも 立って  
語る。話はやゝもすると沈痛になり勝ちなり。終りに盛んにへボぬいて、閉会とせり。

五月二十四日 今日、先輩五藤威夫氏突然永眠さる。原因はヘントー線手術の結果面白か  
らずして遂に不幸の最後をとげられたり。深く哀弔の意を表す。

六月八日 舎生数名、藻岩山に行きて、たぬきの子を三匹捕え来る。

六月九日 松島君、岩沢君、坂本君退舎さる。

午後多勢様と波木居様と軽川に赴き、昨日収穫せる狸のぼっちゃんを半沢養狐場にあずけ来た。半沢某の鑑定によれば狸の子は出産後二日許りを至たるものなれど死すること多分ないだろうと。岩沢君の退舎に付き運動部は玉川君が継ぐ事となった。坂本様が退舎の結果小生（土井）が日記を書く事になった。

六月十日 午前十時より、北大グラウンドに於て予科対高商の庭球及び野球の試合あり。両方とも予科の敗戦となった。残念至極。

六月十二日 午後七時半より時計台に於て木津秀庵氏の農村問題につき講演ありたり。その方に勤勉なる矢田、飯島、玉川君等出席す。土井久作氏は養蚕実習の為農場に泊す。

六月十三日 新設工学部校舎の上棟式あり。お目出たし。今日から札幌神社の大祭なり。御目出たし。

前々日からの人夫が来て裏庭の木を割ってくれた。笹田君は農場に宿す。

六月十五日 札幌神社大祭の為、午後授業なし。こゝに於てつく 札幌神社のありがたみを感じ。

六月十七日 北大グラウンドに於て農業大学対北大の試合あり。北大大敗す。午後軽川養狐場より例の狸諸共に永眠したる報告あり。舎生色を失ひたるものあり。

黄塵萬文さすがの聖都も砂漠の感あり。或は樽前の噴火に依るならんと云ふ人あり。

六月十八日 タイムス樽前の噴火を報す。幸に人畜の害なしと。

六月廿一日 時田君、札幌にて徴兵検査を受く。三種合格なり。御目出度くなし御目出たし。

六月廿二日 豊平館に於て独逸絵畫展を本日より二十四日迄行ふ。多数の逸品陳列しありたりと。

六月廿三日 午後七時より独人クエークマン氏の美術に関する講演あり。午後六時より、内村、松村両氏と共に基督教会に於ける三村の名ある植村正久氏の講演日本教会にありたり。

廿七日 予科の試験発表が愈々出た。舎生の多くは一苦勞である。

廿八日 午後八時より決算を行ふ。一日分食費五十五銭なりき。

卅日 夜十時頃家鴨が悲鳴をあげたので皆んなとび出て池の処へ行ったら一匹の犬がいそいでにげて行った。あさましき犬よ。

七月三日 予科の学期試験愈々始まる。

七月九日 試験も愈々終結し、大風一過の感ありしに、突如有島武郎氏の変死の報を得一同愕然たり。偉人の死は後世の批判により定まるものとはいへ情死とは氏の為に遺憾なり。

月次会を催す。先生を始め亀井笹部の二先輩及退舎されし坂本、松本両君も出席されたり。話も有島さんの事が多く。先生は故有島氏の人格を称へ死につきては詳細に事情を知りたる後に非ざれば批評しがたと云はれ、最後には誘惑多き故充分注意せよと云はれたり。

亀井氏は有島さんの進歩的にして反省する事少きが此度の事件を起したるならんとて人間は心を開拓すると同時に心を制御する事必要なりと云はる。委員は、中村、松本、加藤、笹田なりき。

七月十日 午前五時第一発の汽車にて奥田、平岡、大村の三君相携へ帰省す。午後一時、飯島、波木居君仁木に赴く。中村君川島君は定山溪に赴きたり。久邇宮来札す。

七月十一日 午前九時多勢君合宿に、午後五時中村、川島君定山溪より帰舎、午後九時八分、川島君帰省す。久邇宮本学に行啓す。

七月十三日、午前九時時田君旭川方面へ旅行さる。

七月九日月次会の際来学期委員選挙を行ひたり。氏名左の如し。

文藝 平岡君、食事 加藤君、衛生 川島君、運動 大村君、会計 時田君なりき。

七月十四日 笹田君岩見沢へ行かる。

七月十五日午前五時発の急行にて梅津君帰省す。午後二時、旅行中なりし時田君帰舎す。笹田君帰舎す。

七月十六日、植物採集のため今井、時田両君 野幌に赴く。

七月十七日 時田、今井両君帰舎す。

七月十八日、中村、時田両君旅行のため午後九時出発す。時田君は室蘭を経て帰省すと。

七月十九日 波木居君仁木より帰舎す。

七月二十一日 中村君帰舎す。午後五時加藤君 へ赴く。

二十二日 飯島君仁木より帰舎す。

二十三日 加藤、土井両君帰舎す。

二十五日 多勢君帰舎す（合宿より）。

二十六日 飯島君帰舎す。波木居君登別方面に旅行す。多勢君も同方面に遊行す。

二十七日 松本君室蘭を経 帰省す。

二十九日 今井君登別に赴く。加藤、土井二君、蝦夷富士に登山。

三十日 今井、加藤、土井三君帰舎す。奥田君は夜帰舎す。

七月三十一日 奥田君夕張へ赴く。

八月二日 午前五時多勢君帰省す。午後三時奥田君夕張より帰舎。夜玉川君遊らに来らる。

八月六日 会費計算を行ふ。一日食費六十三銭九厘なりき。

八月八日 今井君早朝利尻富士に登山すべく出発す。

八月十二日 午前八時労働先より玉川君帰舎す。

八月十三日 午前十一時今井君帰舎す。

八月十四日 笹田君帰省す。

八月十五日 松本君文藝部へ金五円寄附さる。

八月十六日 笹田君帰舎す。

八月 日多勢君帰舎。

八月十九日 午後六時より在舎生のみにて月次会を催す。委員は多勢君にして肉鍋の馳走ありたり。

八月二十日 午前五時、長らく舎に滞溜せる下村君（土井君の友）舎生の好意を謝し帰郷す。同君三円舎に寄附す。

八月二十一日 奥田、今井、多勢、加藤、土井諸君等、銭函に露営すべく、午後一時三十分札幌を出発す。波木居君も銭函に行きしが直ちに帰舎せり。

八月二十二日 奥田、今井、多勢、加藤、土井五君、帰舎す。

八月二十四日 加藤元首相逝去の報あり。

八月二十七日 深更時田君帰舎す。

八月三十日 食費計算を行ふ。

八月三十一日 予科一年平野三夫君入舎す。

九月一日 玉川君早朝帰舎す。

九月二日 < 関東大震災 >

本日土井君より事務を受つぐ。正午頃、東京横浜等大地震火事等あるとの号外に舎生皆愁色につまらる。

九月三日 午前、中村、時田、加藤の諸君急に帰京を思つき種々要意し午前九時の急行にて上京す。同車に大学救護班の乗込みたり。首都東京附近の大騒動にて人心動揺を極む。

九月五日 東京の地震、火事により東京大半、横浜全部焼失したりとの報来る。東京、横浜、一帯戒厳令しかる。鮮人暴動を起す。寄宿舍にいるも僅か九人残り、友の身の上について直に愁ひに沈む。医科大学は今月一杯休みになりたり。

九月七日 午後十一時五十分の汽車にて飯島君帰舎。佐藤總長も同車にて東京より帰札されたり。

九月八日 午前十一時より中央講堂にて佐藤總長の東京についての講話ありたり。

九月十一日 梅津、大村両君より無事の報知ありて、皆々安心す。吾が寄宿舍に於ては誰も死傷者無し。梅津君当分休校との事、夜、川島君帰へり来る。

九月十二日 < 師範学校の寄宿舍の火事 >

午前一時頃師範学校の寄宿舍燃ゆ。二棟ばかり焼失、奥田、多勢、飯島、玉川、波木居の諸君大いに消防応援に努め活動し二時頃帰へり来る。

九月十三日 < 東京災害のため大学も五日間休業 >

今日より五日間、東京災害の為休暇となる。午後、多勢、奥田、平野、平岡の諸君と舎の胡桃を取る。バケツ七杯あまりあったり、大収穫に皆大喜び、その胡桃を土中に埋め、冬の日のためのしみを待つ。

九月十五日 笹田君帰省さる。風雨烈しく北海道にて汽車不通になる所ありたり。

九月十七日 多勢君のロールド・キャベージにて夕食は素敵。午後七時半、中村君、東京より帰へらる。東京惨害の様子を詳細に語る。

物凄き惨害の絵葉書なり、特に帰へらる、然も中村君の家も焼けたとの事同情のいたりなり。中村君食事あり。

九月十八日 笹田君帰舎さる、食事なし。

九月十九日 夜、笹田君の水瓜の御馳走あり、時に中村君東京惨害の実見談を話さる。

九月二十日「カラムゾーフ兄弟」の上、中巻を幸に古本屋に見出し購入す。午後十二時の急行にて時田、加藤の両君帰舎さる。時田君の家及び御家族一同無事。加藤君家族一同無事なれど家焼失したとの事気の毒の致り。

九月二十一日 夜、矢田君帰舎さる。加藤君の父上今日より舎に宿らる。

九月二十四日 今日、秋季皇霊祭にておはぎの御馳走あり。畳を全部新調す。特別室は表換、新畳の息ひ気持よし。

九月二十九日 加藤要君退舎、一家札幌に引移られたとの事。

夜、盛大な月次会ありたり。当日委員左の如し。矢田、多勢、時田、笹田の諸君なり。委員諸兄は非常な奮闘なりにて大いに感謝す。

舎長宮部先生、鈴木、亀井、笹部の諸先輩出席さる。当日の辨士諸君は近来まれに熱烈に説かれた。真に心の奥底より出る叫びであった。辨士左の如し。

平岡、飯島、今井、玉川、波木居、梅津の諸兄なり。本日は平野君入舎の辞をのべる今後、加藤君食費支拂について審議す。

震災に合はれ非常に同情に堪へぬ次第なれば罹災後の加藤君及び同君の父上の食費免除することに決定せり。

今月の委員なる加藤君退舎され、大村君震災のため、未だ来舎あらざれば、食事、運動の委員を選挙す。食事部多勢君、玉川君同点にて七点、運動部同じく兩人同点にて五点、結極チャンケンにより多勢君の勝となり多勢君は運動部、玉川君は食事部の委員に当選ありたり。

十月一日 夜決算を行ふ。一日五十九銭也。白根治一君（工専一年）入舎せらる。

十月六日 予科対高商の野球試合あり。予科負ける。

十月七日 予科対高商の剣道試合あり。予科負く。大学の競技会ありたり。

十月十日 室換を行う。

一号 波木居君	二号 玉川君
三号 矢田君 平野君	四号 梅津君、大村君
五号 飯島君 川島君	六号 中村君
七号 今井君	八号 土井君、杉村君
九号 時田君、平戸君	十号 笹田君 平岡君
十一号 多勢君、白根君	十二号 松本君

今日予科三年の実弾射撃、月寒にて施行さる。

十月十三日 今井君野幌より帰舎さる。英農一年平戸勝七君入舎さる。

十月十四日 秋晴れの良天気、本日秋季庭球大会を行ふ。午前舎生を二分し、紅白試合を

為す。

紅軍不戦一組、優退二組を作り優勝す。

正午十二時より舎外団对在舎生の庭球試合を行ふ。

< 詳細な戦績、書き取りを略す >

松本君富永君組一等、多勢君松島君組二等となる。試合後皆でしる粉を食いつゝ楽しき一日を終る。

十月十七日 手稲登山を為す。松本君平野君は病気の為め、中村君、今井君は事故の為、在舎す。天気晴朗にして登山にあつらへ向きの日、七時半の汽車にて出発。八時軽川発、十時半頃頂上に達す。今日は例年と違ひ、沢をつたひ上り非常に近道し且非常に容易に上る事を得たり。途中紅葉は紅に燃え、実に壯観を呈す。頂上に近づけば雲はあちらこちらに散在す。雪を享樂しつゝ十時半頂上に達す。此の日快晴なればエゾ富士、樽前...の連峰明に見ゆ。

一時頂上を出発し、二時半の汽車にて帰へる。

十月廿日 本日午後一時より進修学舎（和歌山寄宿）とテニス試合を挙行す。

戦績左の如し

進修学舎	当舎
栗原・荒木[2勝]	時田・多勢
橋本・掛下	梅津・平岡
南方・岸田[1勝]	白根・富永[1勝]
葛原・出口	今井・川島[2勝]
坂上・伊田	奥田・山田(弥)[2勝]

優勝二組を残し当舎の勝

十月二十三日 記念祭祝歌の投票す。時田君の歌当選す。

十月二十七日 舎の定山溪旅行挙行す。朝九時出発、徒歩にて午後二時定山溪着、ホテルに一泊、豪遊を極む。

十月二十八日 この日実に日本晴にて旅行には好日。十時ホテル発、炭酸泉に向ふ。十二時炭酸泉に達。味噌汁、茶等をわかし、うまき午餐をとりたり。三時四十分発の汽車にて無事帰舎。今井君夜十一時発の汽車にて植物研究の為め旅行せらる。

十一月三日 宮部先生の御都合により延期になりし記念祭もいよ 今日となって種々忙しい。

午後五時頃宮部先生を初め諸先輩、鈴木限三、前川十郎、亀井専次、笹部義一、山口千之助、小林作五郎の諸氏御出下さる。

五時半より晚餐を共にす、先づ奥田君の挨拶あり次に宮部先生諸先輩を代表して招待に対し感謝の辞を述べらる。

午後七時半より記念祭を開く。先づ時田君の開会の辞、奥田君の感想および舎の会計報告、次に新入生、白根治一、赤羽敬二、平戸勝七、矢口道愛、江尻唯一の諸君の挨拶あ

り、次に今井君、梅津君、中村の感想あり、次に先輩山口千之助、笹部義一、亀井専次、前川十郎、鈴木限三諸氏の演説あり、共に舎のたのしい追憶、輝いた未来について語る。最後に宮部先生の舎の組織に対する吾々の覚悟について訓辞あり、次に祝歌と歌の奥田君の先導にて宮部先生万歳三唱、宮部先生先導にて寄宿舍万歳を叶ふ。次に平岡君の閉会の辞に終る。

会后食事部の努力により餅の馳走あり、おしむらくは餅の形のあまり良からざるなり。斯くしてたのしき記念祭の一夜は過ぎたる。

今日より土木一年、江尻唯一君入舎せらる。

当日は小樽より小松佐一、朝倉の諸先輩より祝電、同〔読めない〕七郎、黄金井解〔ママ〕の諸先輩より手紙により祝詞ありたり。

当日寄附左の如し。

宮部先生 五円、鈴木限三氏 五円、亀井専次氏 一円五十銭、笹部義一氏、山口千之助氏、小林作五郎氏一円。又、青木三哉氏より菓子一箱あり。

当日委員役割左の如し。

食事係主任玉川君、多勢君、矢田君、笹田君、飯島君、松本君、装飾係主任中村君、梅津君、波木居君、今井君、川島君、平田君、白根君、接待係主任平岡君、奥田君、時田君、土井君、平戸君

十一月五日 食費計算を為す、一日五十八銭。

十一月六日 本日よりストーブをつける。好きにつけ悪しきにつけ悲喜こもごもいたる。

十一月十日 矢口道愛君（農実一年）入舎せらる。

十一月十二日 競売を行う。

中公・秋季特大 100 銭	中村様	中公十月八十五銭	梅津様
太陽十月 三十銭	多勢様	太陽九月 八十銭	松本様
朝日 100 銭	多勢様	タイムス十月 八十銭	奥田様
萬朝報十月 69 銭	梅津様	教青 85 銭	飯島様
萬朝報十一月 85 銭	波木居様	タイムス 11 月 80 銭	中村様

十一月十四日雪が降りて皆喜ぶ。

十一月十五日 大村君、今度の震災の為め、家事の都合上、退学され舎を出らる。君の前途に榮あらん事を希う。

十一月十七日 風雪烈しく手稲の山々銀白色に輝けり。

十一月十八日 風烈しく道は悪く外出できざれば午後在舎生、、、東西両側のピンポン試合を為す。西側敗北。

十一月二十日 雪降りてスキー連を喜ばせしが淡雪ふりしをうらむ。

十一月二十二日 実科の人々試験始まりたれば奮闘

十一月二十五日 予科試験発表になる。

十一月三十日 決算を行う。一日五十九銭。

十二月一日 雪積りてスキーマンを喜ばす。十一月分月次会を行ふ。宮部先生には御多忙とて出席なかりしが、北村、笹部、亀井、小林の諸先輩出席さる。小林氏は夏休の満州旅行を話せる。非常に面白かりき。

今後賄婦年末賞與について相談す。一人一円あてやる事に決す、当日委員左の如し。  
梅津、飯島、土井、平岡の諸君なり。

十二月三日 雪猛烈に降る。試験も近きた事にて皆の勉強は

十二月五日 舎の前のポンド堅く凍りたればスケートに喜ぶ。

十二月十日 雨が降る。スキーマンの失望大なり。

十二月十四日 予科の試験開始、大いに頑張れ。

十二月十八日 玉川君、旭川方面見学旅行に行かる。

十二月二十日 笹田君帰舎さる。予科試験終る。

十二月二十一日 笹田君帰舎、今年最終の月次会を行ふ。宮部先生、亀井氏出席、諸君の熱烈なる感想あり。憫む者に幸あらん事を。

委員の改選を行ふ。白根君（会計）梅津君（文藝）矢田君（食事）江尻君（衛生）平野君（運動）なり。

競賣を行ふ。朝日 100 平岡君 中央公論 十一月 川島君 80

タイムス 75 土井君 中央十一月 赤羽 95

萬朝 70 梅津君

十二月二十二日 平戸君帰省

十二月二十三日 玉川君修学旅行より帰らる。

十二月二十五日 多勢、川島、笹田、矢口、赤羽の諸兄スキー合宿、青山温泉に行かる。時田君、夜帰省さる。

十二月二十六日 飯島君帰省さる。

十二月二十八日 午前三時より餅搗きを為す。一俵の餅を元気よく午前八時迄に搗く。

十二月二十九日 午後七時より石澤氏追悼会を開く。宮部先生のレコードを以て静かなる追悼の会を有したり。川島君スキー合宿より帰舎す。

十二月三十一日 亀井氏御結婚記念に頂戴せし十円を以て左の書を購入す。

カント哲学序論、白痴、ポンペイ最後の日、ピンポンの秘訣

夜七時スキー合宿より多勢、赤羽、笹田、矢口の諸君帰舎す。皆大元気。年越の会をする。除夜の鐘が雪の中からボーンと響きだした。